

＜付録２＞学協会へのアンケート

【実施概要】

① 目的

- ・オープンイノベーションにつながるオープンサイエンスへの取組状況を調査し、オープンサイエンスへの取組に関する検討委員会の議論の参考とするとともに、研究者コミュニティとしてのコンセンサス形成に資すること。

② 実施日

- ・2016年1月18日（回答期限：2016年2月15日）

③ 対象先（送付先）

- ・第1部、第2部、第3部それぞれの関連学協会へのアンケートを実施。第1部は学会連合を中心に、第2部は委員関連学協会に、第3部は理学・工学系学協会連絡協議会のメンバー学協会に、アンケートを送付（回答は学会連合に所属する学協会などから個別にいただいたので、回答率を算出することはできない）。

④ 回答総数

- ・61

【調査結果】

問1は学会名などの問なので省略。

問2

貴学協会内で内閣府報告書について議論になったことはありますか。

- ・ある：8
- ・ない：53

問3

貴学協会において、オープンサイエンスに関わる（研究データの再利用、有効利用も含む）委員会や研究会などがありますか。ある場合は、委員会・研究会の名称、概要、担当者を記載してください。※複数ある場合は、すべて記載してください。

- ・ある：11
- ・ない：50

【回答抜粋】

- ・情報委員会。学術資料の電子化推進、WEB 公開データベースの拡充、情報発信のあり方の検討等を行う。
- ・情報コミュニケーション委員会。ホームページのコンテンツの企画立案および運営管理を継続的に行い、会員や技術者に向けた有益な技術情報、当該分野に興味のある学生への教材や講座、ウェブを利用した学生と企業のコミュニケーション、学会誌のタイアップ

- ブなどを盛り込んだ定期的なホームページ更新による情報発信および広報活動。
- ・ 広報委員会。学会ホームページの構築と運用、学会誌の電子化とオープンアクセスに関する業務。

問 4

貴学協会の研究分野で、論文・論文に関わるデータ・データベース等のデジタルデータをすでに公開している取組がありますか。ある場合は、名称や概要を記載してください。(例：①学会誌をホームページで公開している、②論文の中のデータにアクセスできる、③当該分野のデータを集めてデータベースとして公開している 等) なお、そのような取組が複数または多数あって記載しきれない場合は、事例をいくつかあげ、「その他〇件程度」と記載してください。

- ・ ある：52
- ・ ない：9
- ・ 公開データの項目別の先数（「ある」と回答した先のうち）
 - ① 学会誌、機関誌、紀要、論文集の公開：50
うち学協会ホームページで公開：34
J-STAGE、CiNii を通じて公開（学協会 HP で公開の先を含む）：20
英文誌、国際誌を公開（J-STAGE、CiNii、その他機関を通じた公開を含む）：30
 - ② 研究過程で生産されたデータ（生・メタデータ等）の蓄積・公開：2
 - ③ 当該分野に関連するデータベース（データライブラリ、新技術等）を公開：6

【回答抜粋】

- ・ ホームページによるデータベース公開。①論文等検索システム、②科学技術振興機構 J-STAGE からデータを一般に無料公開（論文集、技術報告集、英文論文集）、③図書館デジタルアーカイブス（戦前、戦後の同会刊行物を一般に無料公開）、④博物館デジタルアーカイブスを無料・有料で公開。
- ・ 大量の塩基配列データをすべて科学技術振興機構のデータベースセンターに格納するよう指導。塩基配列情報の一部はポータルサイトを設け公開。
- ・ データに限らず、動画や音声、ソースコード等を論文に付随のマルチメディアデータとして扱う仕組みを構築済（現在論文を募集中）。
- ・ 生データおよびそれに関わるメタデータの既存公共リポジトリを通じての公開。

問 5

過去5年間の間に、貴学協会において、オープンサイエンス（研究データの再利用、有効利用も含む）をテーマとした、シンポジウム、ワークショップ、セッション、講演、大会報告などの開催事例がありますか。開催されていれば、タイトル、開催年、URL（掲載ホームページがある場合）を記載してください。※複数ある場合は、すべて記載してください。

- ・ ある：8

- ・ ない : 53

【回答抜粋】

- ・ 国立研究開発法人主催のランチョンセミナー「オープンサイエンスと著作権」の開催。
- ・ 統合データベースのワークショップの開催。
- ・ 当該分野の複数領域セッション「オープンサイエンスデータを目指して」を開催。

問 6

利用者の観点に立った場合、「現在は研究者個人がそれぞれ保有しているが、それらを集めて共通のフォーマット・様式に整えておく価値を生む可能性がある」と考えられるデータが、貴学協会の研究分野でありますか。ある場合は、どのようなデータ化記載してください。※学協会としてのご意見ではなく、学協会の会員としての個人的ご意見でも構いません。

- ・ ある : 33
- ・ ない : 28

【回答抜粋】

- ・ 大いに価値を生む可能性があると思うが、研究分野が多岐にわたるため、どのようなデータを誰が保有し、誰が利用可能かを把握することは容易でない。
- ・ (当該分野の) 実験データの統一化や公開は、欧米にならい本学会でも検討しなければならない状況にある。一方で、データは膨大であるため、どのようなデータが該当するか、どのようなデータが該当しないかの分類から行うべき状況にある。
- ・ 実験データベース (物性データ、材料データなど)、基盤的シミュレーションコード、ソースコード
- ・ 論文等に掲載のデータはコンピュータによる数値計算・シミュレーションが中心のため、そのプログラムやアルゴリズムを共有することは有益と思われる。

問 7

その他、オープンサイエンスに関してご意見等があれば、自由に記載してください。

【回答抜粋】

- ・ これまで当学会でこの問題を積極的に検討したことはないが、今後、学会誌のオンライン化を含め、検討すべき課題であると認識している。
- ・ 本分野においては、すでに論文投稿において、すべての測定データを公開することがほぼ義務となっている。リポジトリ&データベースを開発中であり、データを公開することに関しての意識は高い。
- ・ オープンアクセスについては、社会的な公開メリットはあるが、学会運営の立場として

は、学会会員以外への無条件公開は、会員特典の減少につながり、会員離れのリスクも伴い、適用に慎重とならざるを得ない。

- ・データベースの公開は、データの作成・運用に多額の費用を必要とするため、学協会独自の取り組みには限界がある。国の機関等からの支援の充実が望まれる。
- ・研究生データの保存、共有を、研究不正防止の一環として行っている研究機関がある。この動きとどのように連携するかも重要な視点。
- ・オープン化は、学協会が刊行する学術誌等の経済的基盤を奪ってしまう恐れもあり、進める上ではこの点を充分考慮する必要がある。
- ・オープンサイエンスに賛同する。しかし、以下のような課題もあるのではないか。
 - 1) 学会が公的研究資金を使って研究を行う場合、その成果の権利（著作権、産業財産権）の帰属（国、学会、研究者個人、あるいは研究者所属機関）は？ 権利の利用に対する対価はどのように考えるのか？
 - 2) 検討委員会（内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」）で発表した「我が国の基本姿勢・基本方針」では、公的研究資金によるものは原則公開するとしている。先端的研究のデータは、海外の企業等で技術開発等に利用される恐れはないのだろうか。結果、相対的に我が国の産業の競争力が低下し、国益を損ねることにはならないか？
- ・データ全てを統一化、公開するのは、必ずしも良い方向のみに働くとはいえない。有効なデータを有効な量、有効な形で統一化、公開していかなければ、膨大で無用なデータにまぎれ、本来共有すべきデータが埋もれてしまう可能性がある。
- ・学会誌の論文を刊行直後からオープンアクセスにすることについては、会員数減少の懸念があること、出版社との間の著作権の問題があることなどから、具体的な検討課題とはなっていない。
- ・本学会が主として研究対象としている資料は、図書館、博物館、美術館に所蔵されるものが多いが、それぞれに利用・公開の制限が異なっている。また、公開になじまない性格を持っている。オープンサイエンスの方向に進むことは間違いなく、それによって研究の進展も期待できるが、まずは、公的な機関・組織から取り組むことが必要である。
- ・データの共有化という点では、個々の学協会、個々の媒体（論文誌等）というよりも、著者の所属機関（大学や研究所等）における対応が重要かと思われる。
- ・研究者の純粋な興味に基づいている場合でも、誰よりも早く発見したクレジットを確保することは重要。生物科学・生命科学分野では、ジャーナルにアクセプトされるまではクレジットにならない慣例。それ以前にデータをオープンにすることにはまだまだ非常に抵抗が大きいだろう。

【別紙】オープンサイエンスについてのアンケート

オープンサイエンスについてのアンケート

2016.1.18

日本学術会議

オープンサイエンスの取組に関する検討委員会

※ 枠の大きさは、自由に変えていただいて結構です。

＜アンケートのお願い＞

日本学術会議では、近年、オープンサイエンスの考え方が国際的に発展してきていることを踏まえ、平成 27 年 4 月より「オープンサイエンスの取組に関する検討委員会」を発足させ、オープンイノベーションにつながるオープンサイエンスについて検討しています。

委員会でオープンサイエンスの取組をヒアリングしたところ、研究分野ごとに大きな差があることが判明しました。また、内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」においては、研究者コミュニティとしてのコンセンサス形成への取組が期待されています。

これらを踏まえ、今回、学協会におけるオープンサイエンスへの取組状況を、調査することにいたしました。

調査結果は、調査にご協力いただいた学協会にお知らせし、オープンサイエンスへの取組に関する検討委員会の議論の参考にするとともに、委員会で取りまとめる報告等にも掲載する予定です。

以上の趣旨を踏まえ、学協会として、以下のアンケート調査にご協力ください。

なお、この調査で得られた情報は、日本学術会議及び内閣府が責任を持って管理します。

また、回答については以下のとおり取り扱います。

- ・回答者のお名前や連絡先等、【非公開項目】と付記してある項目は公開しません。
- ・その他の自由回答については、匿名性を確保した上で、報告書等で引用する場合があります。
- ・個別の学協会での取組等については、照会をさせていただく場合があります。

<回答にあたって>

このアンケートでは、内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書（2015年3月30日公表）（以下、「内閣府報告書」と言う。）（注）を参考に、用語について以下のように定義しています。

（注）「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」
<http://www8.cao.go.jp/cstp/scnota/openscience/>

オープンサイエンスの議論の背景や考え方については、上記内閣府報告書をご参照ください。

○「オープンサイエンス」

オープンサイエンスとは、オープンアクセスと研究データのオープン化（オープンデータ）を含む概念である。

○「データ」

研究成果に関するものすべてが対象となる（含む生データ）。

※内閣府報告書では、デジタルデータのみを対象としている。

○「データの公表」

最低限、データの存在場所が示されていること

（研究分野やデータの特性、コストなどに配慮したアクセス管理がなされていること）

<回答期限> 2016年2月15日（月）

<提出先>

日本学術会議事務局 審議第二担当

E-mail: kadaibetu-scj@cao.go.jp

件名を「【〇〇（学協会名）】オープンサイエンスについてのアンケート」としてご提出ください。

<お問合せ先>

オープンサイエンスの取組に関する検討委員会 土井美和子委員長

E-mail: open2015sc@gmail.com

件名を「オープンサイエンスについてのアンケート」としてお問い合わせください。

問1. 貴学協会及びお答えいただく方について、ご記載ください。

学協会名

回答者名【非公開項目】

所属・役職【非公開項目】

メールアドレス【非公開項目】

主な研究分野：1つ選択してください。

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 言語・文学 | 12 統合生物学 | 23 地球惑星科学 |
| 2 哲学 | 13 農学 | 24 情報学 |
| 3 心理学・教育学 | 14 食料科学 | 25 化学 |
| 4 社会学 | 15 基礎医学 | 26 総合工学 |
| 5 史学 | 16 臨床医学 | 27 機械工学 |
| 6 地域研究 | 17 健康・生活科学 | 28 電気電子工学 |
| 7 法学 | 18 歯学 | 29 土木工学・建築学 |
| 8 政治学 | 19 薬学 | 30 材料工学 |
| 9 経済学 | 20 環境学 | 31 その他 () |
| 10 経営学 | 21 数理科学 | |
| 11 基礎生物学 | 22 物理学 | |

問2. 貴学協会（理事会等）で、内閣府報告書について、議論になったことはありますか。

1 : ある

2 : ない

問3. 貴学協会において、オープンサイエンスに関わる（研究データの再利用、有効利用も含む）委員会や研究会などがありますか。ある場合は、委員会・研究会の名称、概要、担当者を記載してください。※複数ある場合は、すべて記載してください。

1：ある（委員会・研究会の名称、概要、担当者を記載してください。）

委員会・研究会名：

概要：

担当者名：

2：ない

問4. 貴学協会の研究分野で、論文・論文に関わるデータ・データベース等のデジタルデータをすでに公開している取組がありますか。ある場合は、名称や概要を記載してください。

（例：①学会誌をホームページで公開している、②論文の中のデータにアクセスできる、

③当該分野のデータを集めてデータベースとして公開している 等）

なお、そのような取組が複数または多数あって記載しきれない場合は、事例をいくつかあげ、「その他〇件程度」と記載してください。

1：ある（名称や概要を記載してください）

--

2：ない

問5. 過去5年の間に、貴学協会において、オープンサイエンス（研究データの再利用、有効利用も含む）をテーマとした、シンポジウム、ワークショップ、セッション、講演、大会報告などの開催事例がありますか。開催されていれば、タイトル、開催年、URL（掲載ホームページがある場合）を記載してください。※複数ある場合は、すべて記載してください。

1：ある（タイトル、開催年、URL（掲載ホームページがある場合）を記載してください。）

タイトル：

開催年：

URL：

2：ない

問6. 利用者の観点に立った場合、「現在は研究者個人がそれぞれ保有しているが、それらを集めて共通のフォーマット・様式に整えておく価値を生む可能性がある」と考えられるデータが、貴学協会の研究分野でありますか。ある場合は、どのようなデータか記載してください。

※学協会としてのご意見ではなく、学協会の会員としての個人的ご意見でも構いません。

1：ある（どのようなデータか記載してください。）

--

2：ない

問7. その他、オープンサイエンスに関してご意見等があれば、自由に記載してください。

--

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

提言等の提出チェックシート

このチェックシートは、日本学術会議において意思の表出（提言・報告・回答、以下「提言等」という）の査読を円滑に行い、提言等（案）の作成者、査読者、事務局等の労力を最終的に軽減するためのものです。

提言等（案）の作成者は提出の際に以下の項目をチェックし、提言等（案）に添えて査読時に提出してください。

	項目	チェック
1. 表題	表題と内容は一致している。	1. はい
2. 論理展開 1	どのような現状があり、何が問題であるかが十分に記述されている。	1. はい
3. 論理展開 2	特に提言については、政策等への実現に向けて、具体的な行政等の担当部局を想定している（例：文部科学省研究振興局等）。	1. 部局名： C S T I， 文部科学省
4. 読みやすさ 1	本文は 20 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。※図表を含む	1. はい
5. 読みやすさ 2	専門家でなくとも、十分理解できる内容であり、文章としてよく練られている。	1. はい
6. 要旨	要旨は、要旨のみでも独立した文章として読めるものであり 2 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。	1. はい
7. エビデンス	記述・主張を裏付けるデータ、出典、参考文献をすべて掲載している。	1. はい
8. 適切な引用	いわゆる「コピペ」（出典を示さないで引用を行うこと）や、内容をゆがめた引用等は行わず、適切な引用を行っている。	1. はい
9. 既出の提言等との関係	日本学術会議の既出の関連提言等を踏まえ、議論を展開している。	1. はい
10. 利益誘導	利益誘導と誤解されることのない内容である。	1. はい
11. 委員会等の趣旨整合	委員会・分科会の設置趣旨と整合している。	1. はい

※チェック欄で「いいえ」を記入した場合、その理由があればお書きください

記入者（委員会等名・氏名）：オープンサイエンスの取組に関する検討委員会
土井美和子 委員長

参考： 日本学術会議会長メッセージ、「提言等の円滑な審議のために」（2014 年 5 月 30 日）。
<http://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/140530.pdf>